

第3回交通信号工事士技能検定結果発表

ごあいさつ



常務理事 松原一朗

(北明電気工業(株)
 代表取締役社長)

平成25年9月8日、2020年東京オリンピックの開催が決定しました。当協会においてもより事業の拡大に期待ができる風が吹いてきているのではないのでしょうか。

平成25年度の技術講習会が5月に開催され171名が受講されました。6月には信号工事士技能検定が実施され、177名が合格されました。また、この協会も発足以来4年目を迎えて、現時点で法人176社、個人3の方々に会員になっていただいております。これはひとえに皆様のご支援、ご協力の賜物と感謝いたしております。

この交通信号工事士技能検定は平成26年度から一般公開となり、全国一斉に実施されます。

これはとりもなおさず、交通信号工事士の意義がより社会的に評価されるとともに社会的責任がより重くなることを意味すると考えております。

さらに交通信号工事施工ハンドブックの編纂業務は終盤を迎えております。

今後はこれらの事業を着実に推進し発展させるとともに、これらの事業の意義や社会性を広く世間に浸透させるとともに、全国の警察に認知していただくための努力が必要と考えています。それに加え、平成24年3月に三重県警察本部と締結した防災協定は、当協会の社会的役割が一層増加し、より明確となってまいりましたが、今年度はそれをより一層明確にするために、災害発生時に即応できる技術を競い合う競技会である「交通信号甲子園」の試験開催をいたしました。これは真に実効ある対応ができる体制を構築するとともに、このような社会的課題の解決に一定の答えを出せたのではないかと考えておりますので、会員の皆様方におかれましても、引き続きこれらの協会活動に積極的に関わって頂ければ幸いです。

なお、参考として平成25年8月26日、全信工事務所の移転が完了し、併せてホームページのリニューアルが完成いたしましたので今後とも大いにご活用願います。

検定合格状況

平成25年度交通信号工事士技能検定実施状況

試験日	開催地	
H25.6.12(水)	仙台 宮城県建設産業会館	仙台市青葉区支倉町2-48 6F
H25.6.13(木)	東京 アリアル五反田駅前会議室	東京都品川区西五反田1-2-9
H25.6.18(火)	名古屋 名古屋中小企業福祉会館	名古屋市中区大須2-19-36
H25.6.14(金)	大阪 大阪府社会福祉会館	大阪府中央区谷町7-4-15
H25.6.21(金)	岡山 岡山県労働福祉事業会館	岡山市北区津島西坂1-4-18
H25.6.19(水)	福岡 福岡医療専門学校	福岡市早良区祖原3-1

検定合格者 177名

平成25年度交通信号工事士技能検定試験は上記6会場で開催され、難度の高い問題にもかかわらず177名が合格されました。

過去2か年の合格者数(平成23年度807名、平成24年度678名)を加えると全国で1662名が取得されたこととなります。

あらためて受験者の方々おめでとうございます。

技術講習会が下表の日程で開催されました。開催場所は、昨年度より1会場追加し5会場で開催、171名が受講されました。

今回も座学として信号制御機の構造と信号機の運用に加え、常盤電業(株)が社員教育のために信号工事内容をビデオ化した視聴覚教材を活用させていただきました。

また、制御機の設定についても、動画化し講習資料を視覚に訴える等創意工夫を凝らし、受講生の皆様が現場で役立つ資料の提供に一層心掛けています。

平成25年度交通信号工事技術講習会開催状況

開催日	会場	
H25.5.21(火)	盛岡 アイ・アイわて県民情報交流センター	盛岡市盛岡駅西通1-7-1
H25.5.23(木)	横浜 波止場会館	横浜市中区海岸通1-1
H25.5.24(金)	東京 科学技術館	東京都千代田区北の丸公園2-1
H25.5.29(水)	金沢 金沢勤労者プラザ	金沢市北安江3-2-20
H25.5.31(金)	山口 山口県社会福祉会館	山口市大手町9-6 ゆ〜あいプラザ

盛岡会場



横浜会場



東京会場



金沢会場



山口会場



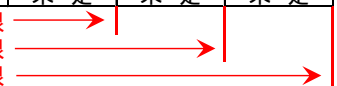
今後の技術講習会開催予定

実施年月	H26 5~8月	H27 5~8月	H28 5~8月	H29 5~8月	H30 5~8月
開催予定地	東京都 大宮市	東京都 大阪市	東京都 静岡市	東京都 盛岡市	東京都 未定
	大阪府 大阪市	愛知県 名古屋市	長崎県 長崎市	未定	未定
	福岡県 福岡市	未定	熊本県 熊本市	未定	未定
	未定	未定	未定	未定	未定
	未定	未定	未定	未定	未定

平成23年取得した資格の有効期限

平成24年取得した資格の有効期限

平成25年取得した資格の有効期限



交通信号工事士技能検定

検定制度の趣旨

当協会では、平成23年度から協会員を対象とした「交通信号工事士技能検定試験」を実施してまいりました。平成25年度においては、177名が認定され、総数1,662名が資格を取得しております。

平成26年度からは、この検定試験を一般公開とし、広く全国の交通信号工事等に従事する人々に取得して頂くことといたしました。

交通信号工事は、交通が絶え間なく動いている状況の下で交通信号機を遮断することなく工事をしなければならぬのです。

そのために交通信号機に関する高度な技術はもちろん、道路交通に関するあらゆる知識が必要となってきます。

しかも近年、国民の権利意識がより高くなり、道路上の工事による交通渋滞や交通事故、危険防止措置の不備等への非難が交通信号工事に向けられつつあります。

そのため信号工事に従事する者の道路交通にかかわる総合的な技術力を高め、これを満足しているとして認定された交通信号工事士が工事に従事することが必須であるという制度を確立することが喫緊の問題となってきているのです。



交通信号工事甲子園開催風景(平成25年6月開催)

交通信号工事士技能検定実施要領

- 1 実施日時
平成26年8月3日(日) 午後1時から
- 2 実施場所
東京、大阪、福岡(予定)
その他受験者数により受験場所を追加します。
- 3 受験料(施工ハンドブック代を含む)
一般 未定 会員 未定
- 4 出題範囲
試験範囲は施工ハンドブックから出題します。
- 5 受験申込受付期間
平成26年4月1日(火)～平成26年5月20日(火) (当日消印有効)

詳しくは、12月中頃当協会ホームページをご案内申し上げます。

ヨーロッパ視察記

一昨年の韓国交通事情の視察に引き続き、全信工有志による海外視察の一環として今年はヨーロッパ視察(ロンドン、パリ)を実施。団長は日本大学名誉教授の高田邦道全信工理事。

平成25年4月16日、成田午前11時40分発全日本空輸NH201便にて、一路ロンドンへ出発。帰国は4月21日午後2時40分、4泊6日の視察旅行である。イギリスではロンドンにおいてロンドン市交通局を訪問し、バスレーン(レッドルート)、一方通行、交差点運用等のロンドン交通システムを視察の予定であったが、あいにくとサッチャー元首相の葬儀と重なったため、公的機関への訪問は叶わず交通システム等のコンサルタント会社Mott Macdonald社の担当者から説明を受けた。

ロンドンの建物の第一印象は、石とレンガで作られている、そして道路もいわゆる石畳であるということに驚いた。そしてこれらはすべて歴史的建造物で、改修には制約があるそうである。道路は石を並べたいわゆる石畳み舗装で、交差点は大半がロータリー形式である。現在はこれに信号機を設置して運用している。歩道は、すべての道路に整備されている。道路交通においては人中心で、都心への自動車の進行を抑制する対策を積極的に実施しているように見受けられる。例えば、ロードプライシング(一定の地域を通行する場合課金する制度)、二階建てバスの過剰な運行、単路の押釦の乱立、一方通行の運用、路上駐車場を採用し、都心部への一般車両を抑制し、結果として渋滞を緩和させている。

Mott Macdonald社の担当者からは、主に信号制御MOVA(Microprocessor Optimised Vehicle Actuation)の説明を受けた。これは、SCOOTを基本とした制御で、交差点から一定の距離に感知器を設置して、交通量等により制御する方式である。サイクル長は120秒以下で運用し、歩行者、自転車、公共交通機関を優先しているとのことであった。

信号機は路側式が大半で、オーバーハング式はほとんど見られない。単路の横断歩道用の信号機が多く、単独で運用されている。そのため隣接した信号機との系統が取れないため渋滞を発生させている。横断歩道は両側に破線が描いてあるだけで、歩行者は車がいないと平気で信号無視をして横断している。

信号機は単なる交通整理をするための補助的な道具でしかないようである。これは西欧では個人が状況を判断して事故を防ぐ個人責任の国であり、日本は事故が起きたのは行政の責任であるという管理者責任の国であるからかもしれない。

また、信号機のサイクル長が120秒以下で運用されていたが、これは原理的に信号機を付けなくても良いロータリー交差点に信号機を設置し、交通整理をしているためである。そのためそれより長いサイクル長で運用すると必然的に渋滞が発生してしまうからである。なぜなら右折方法が内回りでなく、外回りだからである。

パリでは、パリ14区役所を訪れ、信号機、公共発注方式等について説明を受けた。パリの道路交通事情はイギリスと若干異なり、交差点のロータリー方式は同じであるが、右側通行(イギリスは日本と同じ左側通行)である。路上駐車による渋滞対策は、地下駐車場を積極的に建設することにより解消しようとしている。また、住宅地域の速度低減のために30キロの速度制限を実施、自転車専用信号を設置、自転車と自動車を対向通行、ハンプを設置したり種々の対策を実施している。

入札状況については、一般競争入札を採用しているものの、特殊技術が必要な分野については特定業者のみ入札可能としている。メンテナンス契約については通常3年を採用している。特殊なケースとして水道やバス運行は、コンセッション(運営権)に基づき委託契約している。高速道路は20~30年のコンセッション契約で、その後国管理とする。また、積算価格と落札価格の差については、些少とのことであった。

今回のヨーロッパを代表する2都市を視察して感じたことは、都市部へ集中する交通をいかに抑制するか、しかし道路構造や建築物は変更不可、非常な困難に直面しながら種々の対策を講じている努力が見られた。日本においてはヨーロッパに比べて条件は若干緩やかであり、交通事故分析を基に種々の対策を実施されていることから渋滞緩和や死亡事故の減少が実現されつつある。そして引き続き関係機関の弛まない努力により真の安全で快適な交通社会が実現してゆくことが期待されている。



トラフィック・サークル(非幹線道路では、信号機の代わりに交差点内中央を円形に盛り上げ、単路部からの速度を維持できないように速度を抑制させている。

お問合せ先

〒130-0026 東京都墨田区両国二丁目1番4号(事務所を上野から両国に移転しました。)

一般社団法人全国交通信号工事技術普及協会事務局

TEL:03-6659-3586 FAX:03-3846-5582(電話番号が変わりました。)

URL: <http://www.zenshinko.jp/> E-mail: info@zenshinko.jp (ホームページをリニューアルしました。)